

PLUG AND PLAY JAPAN / IEEJウェビナー

「GX製品・サービスの需要創出に向けたビジネス機会の創発セミナー」 2026年6月22日

# 「GX市場構築に向けた政策の動向」

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所

理事、電力ユニット担任

工藤 拓毅



IEE  
JAPAN

一般財団法人  
日本エネルギー経済研究所  
The Institute of Energy Economics, Japan

## ✓ 日本の脱炭素・エネルギー安全保障を念頭においた政策の視点：GXの実現

- 2020年、2050年カーボンニュートラルを国内外に宣言し、カーボンニュートラルに貢献し日本の新たな成長戦略に資する次世代技術開発に向けた支援を強化。
- ロシア・ウクライナ、中東地域の紛争等による地政学的リスクに対応したエネルギー安全保障対策の重要性が高まる。
- 「エネルギー安定供給・経済成長・脱炭素」の3つを同時追求するGX実現に向けた取組を推進

## ✓ 成長志向型カーボンプライシング構想とGX市場構築の役割

- GX推進法の成立（2023年）を受け、成長志向型カーボンプライシングを社会的に組み込むことが決定。2026年度よりGX-ETSが開始。
- GX-ETSの導入によりGX投資の拡大が期待される中で、GX投資によって生み出される製品が市場で評価、需要が創出され、市場が拡大していくことが重要と提起されている。
- GXフューチャー・コンソーシアムにおいて、GX需要創出・市場拡大に寄与する枠組み、環境整備の検討が行われている。

# 日本のCN実現に向けた取り組みの流れ

(パリ協定発効 (2026年) を受けて) 2020年10月：2050年カーボンニュートラル目標の表明

**グリーン成長戦略の策定** (2020年12月25日)

2050年CNに向け、**将来のエネルギー・環境の革新技术 (14分野)** について社会実装を見据えた技術戦略+産業戦略：**総額2兆円規模のGI基金**の創設

**GXリーグ基本構想発表** (2022年2月) → **GXリーグ本格活動開始** (2023年4月)

カーボンニュートラルへの移行に向けた挑戦を果敢に行い、国際ビジネスで勝てる企業群が、GXを牽引する枠組み。日本のCO2排出量の4割以上を占める企業が賛同表明

**GX推進法可決** (2023年5月12日)

GX推進戦略の実現に向けた**先行投資を支援**するため、2023年度から10年間で、**GX経済移行債を発行 (20兆円規模：2050年度までに償還)** し、**支援措置を具体化**

**化石燃料賦課金** (2028年～) と**特定事業者負担金** (2033年～GX-ETSでの排出枠割り当てを有償オークションで行い、徴収する)

**GX-ETS開始** (2026年度～)

**GXリーグを「GXフューチャー・コンソーシアム」下の「GXフューチャー・リーグ」に改組** (2026年度～)

# GX産業につながる市場創造に向けた取組状況

- 「GX価値の見える化」、「GX製品・サービスの積極調達」のアプローチでGX市場の創出を図る  
(GX2040ビジョン (2025年2月閣議決定))

## GX価値の見える化

- 製品別のCFP（カーボンフットプリント）算定  
ルールの策定
- 国際的な価値の主張等を目的とした削減実績量の  
ガイドラインを策定



製品・サービスのGHG削減価値を算定・明確にする共通のGHG算定ツールを策定し、企業等の貢献を定量的に評価可能とする。

## GX製品・サービスの積極調達

- GX率先実行宣言の枠組みを創設し、GXリーグ参加企業がGX製品の調達を促進することを促す。
- 建築物のライフサイクルカーボン評価を促進する制度の検討。
- クリーンエネルギー自動車導入補助金で、CFPでのGHG低減を算定することで、GX推進に向けた鋼材の導入に関する自動車メーカーの計画・取組を評価。
- グリーン購入法の基本方針で、一定の要件を満たす鉄鋼（グリーン鉄）を使用した物品を、公的調達を推進するものに位置づけ。

# GXフューチャーコンソーシアム

## 入会要件①

### 排出実績・目標の報告

排出量目標	2030年度 直接排出量目標
	2030年度 間接排出量目標
排出量実績	直近年度 直接排出量実績
	直近年度 間接排出量実績

- GX-ETS対象企業を含む
- 毎年、実績を報告

GXフューチャー・アカデミーにおける調査・研究・発信、イベント開催など

GX関連調査/研究  
リテラシー向上

GX関連  
ルール形成の  
推進

GXフューチャー・リーグにおけるWGで、GX等に関する需要創出、円滑な資金供給に向けたルールメイキングや意見発信等を実施

## 入会要件②

【コミットメント】  
GX需要創出に係る2つ以上の取組のコミットメント

- 毎年、実績を報告

GX需要創出・資金供給  
に向けた取組

GXフューチャー・リーグ会員が、GX需要創出・資金供給に向けた自主的な取組をコミット・実施

# コミットメントの類型

類型	項目
GX製品・サービスの 需要創出	GX率先実行宣言の実施
	GX製品又はサービスの積極的な調達又は販売
	調達に関するアライアンスの発起又は入会
サプライヤーとの協業	GXに係るコスト負担に関する合意
	キャパシティ・ビルディング支援、人的支援、技術支援
	設備投資支援
	排出削減に取り組むサプライヤーの積極評価
	CFPの算定、Scope3の算定又はScope 3 排出量の目標設定
ファイナンス面の取組	サステナブルファイナンス等の実施
	金融機関等の支援機関によるエンゲージメントの実施
	クライメート・トランジション利付国債の購入

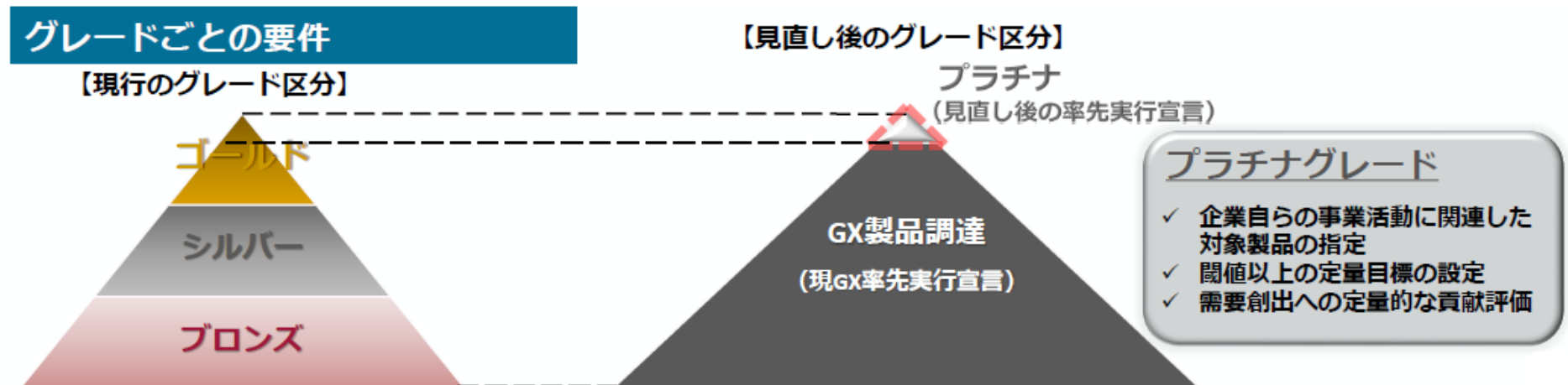
入会時に2つ以上の項目を選択する。

# GX率先実行宣言と関連する事項のアップデート①

- ✓ GX率先実行宣言は、GX市場の創造に積極的な企業が自主的に宣言し、その内容を開示する枠組み。  
**GX製品やサービスの社会実装に積極的な企業を可視化**
- ✓ GX推進関連政策で政府支援が行われている技術（初期需要創出の支援が必要なもの）による製品を購入する企業を評価・公表（購入企業のCFPによるGHG削減貢献を評価）
- ✓ 削減実績量や削減貢献量の算定ルールによる脱炭素効果を評価し、**一定の基準を上回る製品も追加的に対象にする**ことを検討中



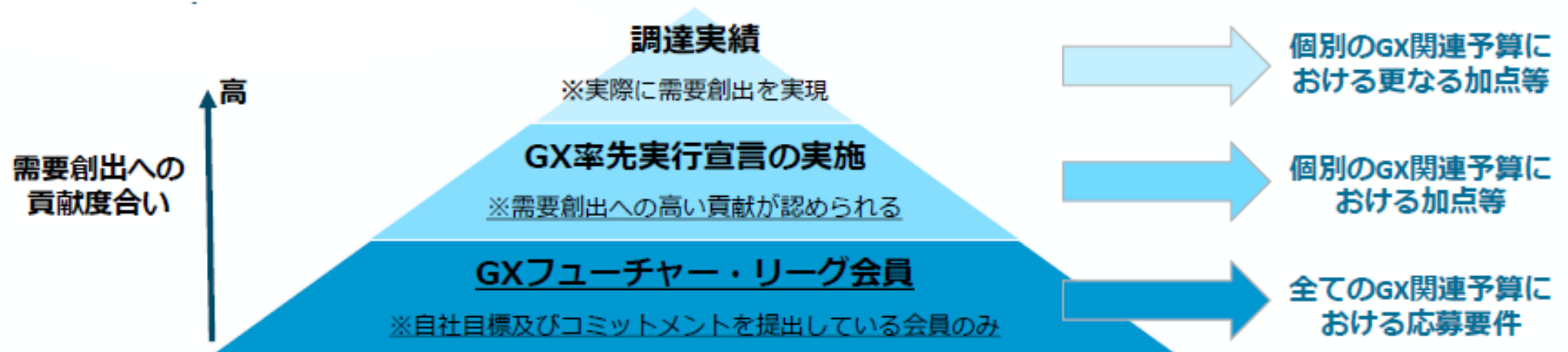
- ✓ 率先実行宣言のグレード（ブロンズ・シルバー・ゴールド）を抜本的に見直し、事業活動との関連や一定の閾値以上の取組をしているといった要件を満たした宣言を「プラチナグレード」とすることを検討中



# GX率先実行宣言と関連する事項のアップデート②

- ✓ GX率先実行宣言を実施した上で、宣言したGX製品の調達に関して高い数値目標を掲げているなど、GX需要創出への貢献度合いが高い事業者に対して、GX関連予算の活用に当たり加点するなど、**GX需要創出に貢献する企業の取組とGX関連予算による支援を結びつけていくための具体的なインセンティブ付与の仕組みを検討中。**

## 企業のGX需要創出の取組とGX関連予算における取扱い



- ✓ 令和8年度後半から、GX需要創出に貢献する企業の取組とGX関連予算による支援を結びつけていくことを目指していく

# GX率先実行宣言と関連する事項のアップデート③

- ✓ GX需要創出に向けて、GX製品・サービスの調達及びそれらを使った最終製品の販売に積極的に取り組む企業について、**需要創出への貢献度合いや取組の先進性等の観点から表彰する仕組み**を検討。

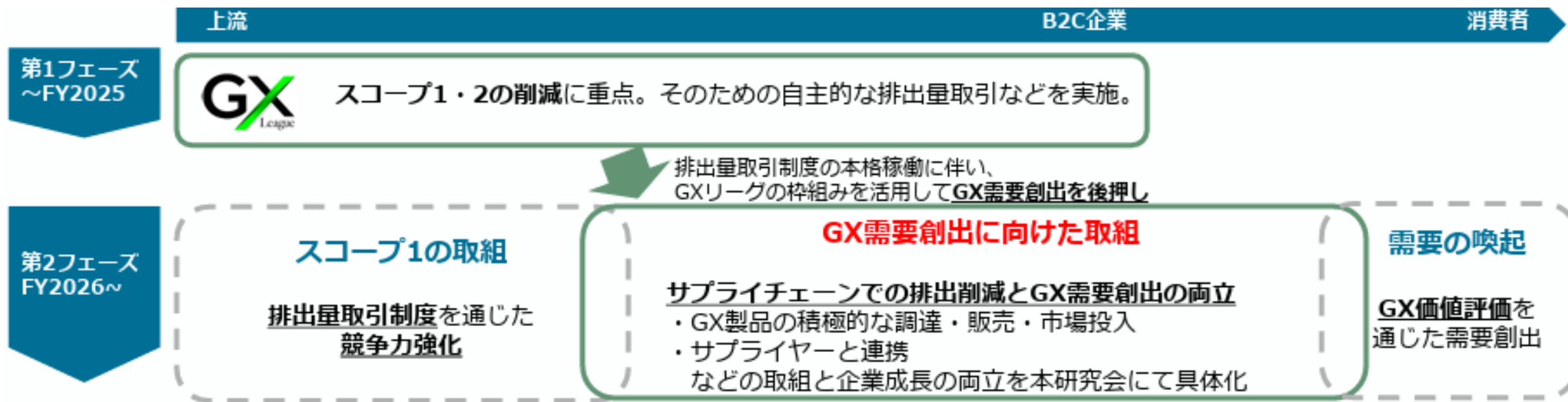
## <表彰制度の概要案>

目的	GX製品・サービスの調達・販売等を積極的に取り組む企業の見える化と評価向上
対象企業	GX率先実行宣言等の対象製品・サービスの調達・販売等を行っている企業
評価部門	<b>製品の調達、サービスの提供、製品・サービスの販売の4つの部門を想定</b>
評価項目	単年度あたりの <b>製品・サービスの調達・販売の実績額</b> など

## <表彰部門のイメージ>

部門	対象業種・企業例	対象製品・サービス例
製品の調達	①重工業メーカー ②自動車メーカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>GXスチールの調達</li> </ul>
サービスの利用	①コンサル ②商社	<ul style="list-style-type: none"> <li>SAF利用航空券の購入</li> <li>グリーン配送メニユーの購入</li> </ul>
最終製品・サービスの販売	①航空会社A ②自動車メーカー ③運送会社A ④小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>GXスチールを用いた自動車の販売</li> <li>SAF利用航空券の販売</li> </ul>
部素材（中間）製品・サービスの販売	①鉄鋼メーカーA ②アルミ会社A	<ul style="list-style-type: none"> <li>GXスチールの製造・販売</li> </ul>

# 今後のGX市場構築に向けた方向性



- ✓ **GX-ETS**：大排出企業のScope 1排出量の削減
- ✓ **GXフューチャーコンソーシアム**：**B2B**をターゲットにGX市場を構築して脱炭素技術普及促進を後押し（Scope 1排出削減コストの均等化→更なる投資を促進）
- ✓ **消費者による需要喚起**（**B2C**；環境省）；GX製品・サービスの消費者選択を促す仕組みの検討
- ✓ サプライチェーンの特性を考えれば**B2B2C**による**統合的な市場形成が求められる**＝例えばB2BでGX製品を購入した企業が、B2Cで需要家（消費者、投資家、等）に評価される、同様に上流企業が消費者に評価される、等

ご清聴有難うございました